

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

ペインクリニック治療指針 改訂第 6 版

一般社団法人日本ペインクリニック学会 治療指針検討委員会 (委員長: 安部洋一郎 NTT 東日本関東病院 ペインクリニック科)

真興交易、2019 年 7 月 20 日 第 6 版第 1 刷発行

■1 呉茱萸湯

疾患:

片頭痛

有効性に関する記載ないしその要約:

片頭痛予防薬の作用機序の項に、下記の記載がある。

『ビタミン B₂、ナプロキセン、呉茱萸湯などは使用実績もあり、予防薬として投与を考慮してもよい薬物とされる。』

薬物名の項に、『呉茱萸湯』の記載がある。

■2 牛車腎気丸

疾患:

有痛性糖尿病性神経障害

引用など:

宇野智子, ほか. 糖尿病の漢方治療: 最新のエビデンス. *医学の歩み* 2012; 241: 475-80.

有効性に関する記載ないしその要約:

有痛性糖尿病性神経障害のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『漢方薬: 牛車腎気丸に、アルドース還元酵素阻害作用、末梢血管拡張作用、抗凝固作用による循環改善による皮膚温上昇、構成生薬の附子による脊髄でのダイノルフィン合成・一酸化窒素産生作用、さらに 2 型糖尿病に対するインスリン抵抗性の改善作用も報告されている。』

■3 漢方薬

疾患:

持続性特発性顔面痛 (PIFP)

有効性に関する記載ないしその要約:

持続性特発性顔面痛 (PIFP) のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『治療は確立しておらず、薬物療法として抗うつ薬や抗てんかん薬、漢方薬などの投与、心理的アプローチが行われる。心理社会的因子の関与もあり、集学的な治療が必要なこともある。』

■4 漢方薬

疾患:

口腔内灼熱症候群 (舌痛症)

引用など:

- 1) 鈴木長明. 口腔・顎・顔面領域における難治性疼痛に対する治療経験-非定型顔面痛と Burning Mouth Syndrome について-. *日本歯科麻酔学会雑誌* 2007; 35: 323-9.
- 2) 渡邊秀和, ほか. 集学的な治療が有効であった舌痛症の一例. *慢性疼痛* 2009; 28: 163-6.
- 3) 牧野真也, ほか. 葛藤や二分割思考がもたらしたと考えられる舌痛症と顎関節症の 3 例一病の真実に迫るナラティブメディスン-. *日本東洋心身医学研究* 2014; 29: 92-5.
- 4) 鈴木長明, ほか. 一般歯科診療所における 6 年間の舌痛症 42 例の検討. *日本歯科麻酔学会雑誌* 2013; 41: 26-33.

有効性に関する記載ないしその要約:

口腔内灼熱症候群 (舌痛症) のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『抗うつ薬 (デュロキセチン、アミトリプチリン、パロキセチン) 、抗てんかん薬 (クロナゼパム、ジアゼパム) 、ドパミン受容体作動薬 (プラミペキソール) 、漢方薬、 α リポ酸などが試みられている。』

■5 漢方薬

疾患:

特発性肋骨神経痛

有効性に関する記載ないしその要約:

特発性肋骨神経痛のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『薬物療法として、NSAIDs やアセトアミノフェン、プレガバリンなどが使用されることが多い。他には抗うつ薬や漢方薬、ビタミン B12 など用いられることがある。』

■6 乙字湯、抑肝散

疾患:

会陰部痛

有効性に関する記載ないしその要約:

会陰部痛のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『漢方治療では乙字湯や抑肝散で痛みが緩和した症例の報告がある。』

■7 漢方薬

疾患:

尾骨痛

有効性に関する記載ないしその要約:

尾骨痛のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『NSAIDs のほか、抗うつ薬や抗不安薬、抗てんかん薬、漢方薬を使用することがある。』

■8 漢方薬

疾患:

脊椎手術後症候群

引用など:

大谷晃司. 特集 発症原因別に見た神経障害性疼痛の最近の話題 -予防・診断・治療- 脊椎手術後疼痛症候群-. *麻酔* 2010; 59: 1370-7.

有効性に関する記載ないしその要約:

脊椎手術後症候群のその他の治療法の項に、下記の記載がある。

『炎症の残存があれば NSAIDs、神経障害性疼痛があれば、抗てんかん薬、抗うつ薬、抗不整脈薬、オピオイド鎮痛薬などを考慮する。漢方薬を用いる場合もある。実際には、1 種類の薬物で十分な効果が得られることは少なく、複数の薬物を用いることが多い。』